宇都宮大学SDGs事例集　もくじ

共同教育学部

No.	表題	担当	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
3-1	被災地の子どもの学びと遊びを支える	教育人間科学系 長谷川 万由美				●													
3-2	栃木のSATOYAMAからグローバルリーダーの育成をめざす	人文社会系　社会 松村 啓子				●							●				●		
3-3	持続可能な開発の理解を支援するデジタルゲーム教材「里山Life・アドミンズ」の開発	自然科学系 理科 出口 明子　川島 芳昭				●							●				●		
3-4	都市の気候と暮らし　北関東内陸に位置する宇都宮市の都市気候実態	自然科学系　理科 瀧本 家康											●		●				
3-5	児童養護施設の子供たちに，ものづくり体験の場を	自然科学系　技術 川島 芳昭　松原 真理	●			●													
3-6	アジアの伝統工芸～漆を通した交流活動～	芸術・生活・健康系　美術 松島 さくら子												●					●
3-7	保健所との連携による薬物乱用防止教育の推進	芸術・生活・健康系　保健体育 久保 元芳			●	●							●						
3-8	技術・家庭プロジェクト　小学校家庭における授業実践	宇都宮大学共同教育学部附属小学校 附属連携技術・家庭プロジェクト　石﨑由紀				●								●					
3-9	今の自分・今後の自分に何ができるか考える取組	宇都宮大学共同教育学部附属中学校 吉田 茂興				●													
3-10	障害のある児童生徒へのより良い支援の在り方や具体的な支援方法を探る取組	宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校				●													

4 質の高い教育をみんなに

被災地の子どもの学びと遊びを支える

共同教育学部

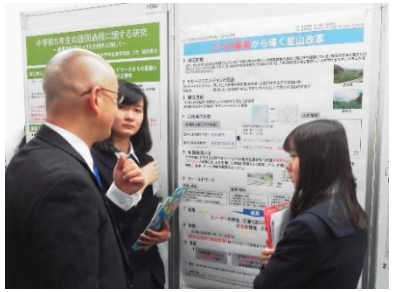
　大きな災害は子どもの学ぶ機会や遊ぶ機会を奪います。被災地の子どもたちの学びや遊びを支える活動を外から支えることが大事です。亘理町は東日本大震災で大きな被害を受け、仮設住宅から学校に通う子どもや遊具や施設の損壊により遊び場に困る子どもも少なくありませんでした。そこで、夏休みの数日、学びと遊びの機会を提供するために2012年から夏休みに宮城県亘理町にて「逢隈小学校サマースクール」を毎年実施しています。本学の学生が企画をし、午前中に4～5の学習プログラム、午後には4～5の遊びプログラムを実施しており、毎年、延べ人数で在校生の1/3以上が参加しています。子どもたちにとっては普段触れ合う機会の少ない大学生と活動できる場、保護者にとっては安心して子どもを送り出せる学びと遊びの場、学生にとっては被災地の子どもの問題を考えるための場であり、貴重な機会となっています。

【担当】
共同教育学部
教育人間科学系
長谷川 万由美

栃木のSATOYAMAから グローバルリーダーの育成をめざす

共同教育学部

栃木県の豊かな里山環境そのものを教育活動の実践の場とし、中山間地域の持続可能な開発に資するグローバルリーダーの育成に取り組んでいます。フィールドは、棚田オーナー制に取り組む茂木町入郷地区、および企業のCSR活動と連携する佐野市葛生地区です。多様な専門性を有する大学生と高校生が共同で、地域資源の活用と持続可能な農村社会の形成をテーマとする調査研究活動を行い、これまでにスタディーツアー用ガイドブックの作成、棚田での生き物観察会の主催、台湾の里山地域との比較研究に関する学会発表（佐野高等学校SGHクラブ台湾班）を行っています。



【担当】
共同教育学部
人文社会系　社会
松村 啓子

4 質の高い教育をみんなに

11 住み続けられるまちづくりを

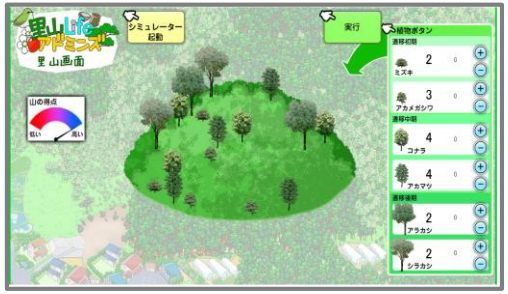
15 陸の豊かさも守ろう

持続可能な開発の理解を支援するデジタルゲーム教材「里山Life・アドミンズ」の開発

共同教育学部

農学部

私たちの研究チームでは，栃木県内の里山地域を舞台にしたゲーム教材「里山Life・アドミンズ」の開発を通して、そこでの自然環境と人間の暮らしに関する理解支援に取り組んでいます。ゲームはすごろく形式で、プレイヤーは自分の里山の管理者としてコマを進めます。里山の植生遷移という科学的なメカニズムを理解して、それに寄り添った管理を行うという質の高い課題解決活動を通して、持続可能な開発に向けて私たちがどのように行動すれば良いのかについて、学ぶ機会を提供しています。

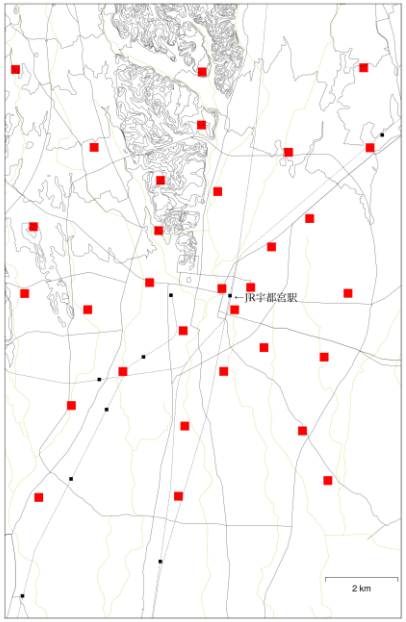


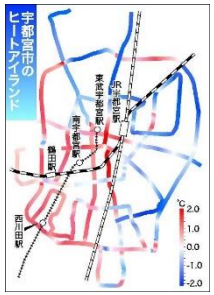
【担当】
共同教育学部 出口明子
共同教育学部 川島芳昭

共同教育学部

都市の気候と暮らし
北関東内陸に位置する
宇都宮市の都市気候実態

宇都宮市では、都市化の進展に伴い過去100年間に約2.1℃気温が上昇しています。本研究室では、市内31ヶ所に独自の観測点（右図）を設け、詳細な本市の気候の実態を明らかにしていきます。特に熱中症のリスクの地域差にも着目します。





【担当】
共同教育学部
自然科学系　理科
瀧本家康

1 貧困をなくそう

4 質の高い教育をみんなに

児童養護施設の子供たちに，ものづくり体験の場を

共同教育学部

技術分野の学生たちは、ものづくりが好きな学生が多いです。それは幼い時、親や祖父母などと‘ものづくりを行い、楽しかった経験’から技術に目覚めたと言います。そこで技術分野では、ものづくりが好きな子供を増やしたいと思い、１０年以上前から、ものづくり教室を行ってきました。大学内や市の依頼で行う教室は、子供たちの意思以上に保護者が熱心である場合が殆どです。そこで本分野では平成28年度から氏家養護園において、ものづくり教室を年１度ですが行っています。学生が中心となり企画を行い、小学生～中学生に、ロボットを使ったプログラミングや電子工作，木材加工だけでなく、保育園児には折り紙なども指導しています。子供達や職員さん達と施設の食堂でランチをし、教室を終えた後は、園長先生から子供の貧困の問題点などのお話を聞いています。将来教員になる学生たちにとっても、貴重な体験の場になっております。

【担当】
共同教育学部
自然科学系　技術
川島芳昭　松原真理

共同教育学部

アジアの伝統工芸
～漆を通した交流活動～

アジア漆工芸学術支援事業は、漆工芸教育支援交流活動を通し、日本とアジアの相互理解を深め、漆工芸の発展を目指す目的で、2002年(平成14年)にスタートしました。ミャンマーのバガンの漆芸技術大学と漆器業者を中心に現在に至るまで漆工芸の技術・材料・デザイン・産業について交流活動を継続しています。

また、ミャンマーだけでなく、カンボジア、ラオス、タイ、ベトナム等の漆工芸のある国々へ活動範囲を広げ、作品展示、講演、公開ワークショップなどの交流活動を通して、漆工芸の可能性・素晴らしさを伝え、日本とアジアの漆文化の発展に貢献したいと考えています。

2018年度は9月に、日本・カンボジア、そしてアジア各地から漆工芸研究者・漆芸家・漆器生産者が集まり 1)展覧会,2)講演,3)ポスターセッション,4)パネルディスカッション, 5)技術公開, 6)ワークショップ, 7)漆掻き見学セミナーを行いました。日本とカンボジアだけでなく、中国・韓国・東南アジア・欧米からも多くの参加者が集い、漆工芸を通した交流が行われました。

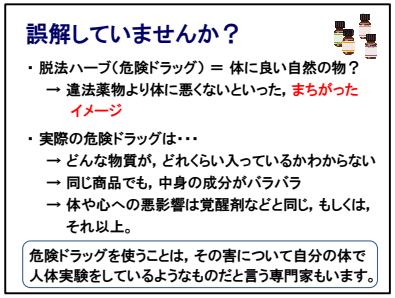
【担当】
共同教育学部
芸術・生活・健康系 美術
松島 さくら子

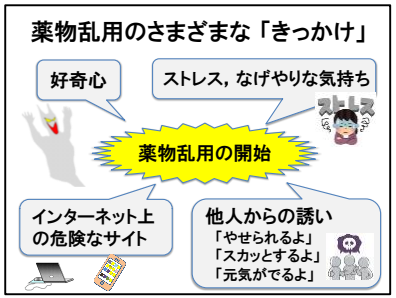
共同教育学部

保健所との連携による薬物乱用防止教育の推進

　我が国における薬物乱用問題として、近年では若者における大麻事犯が増加傾向にあったり、危険ドラッグが蔓延したりするなど、依然として危惧される状況が続いています。

　共同教育学部保健体育分野では、2018年度から、宇都宮市保健所との連携により、市内の小・中学校において学校行事として実施されている「薬物乱用防止教室」の教材やプログラム内容の改善に関する活動を実施しています。また，市内で行われる薬物乱用防止に関するイベントにも、保健所職員と共に参加するなど、地域住民に対する啓発活動を行っています。





作成されたスライド教材の一部

薬物乱用防止の啓発活動

【担当】
共同教育学部
芸術・生活・健康系
保健体育
久保 元芳

4 質の高い教育をみんなに

12 つくる責任つかう責任

共同教育学部

技術・家庭プロジェクト
小学校家庭における授業実践

技術・家庭プロジェクトでは、「技術・家庭における持続可能な社会を担う子どもの育成ー小中連携を通した学びをつなぐ取り組みー」を研究テーマとしています。本授業では、不用になった衣類をどのように自分の生活にもう一度生かすかを考えることで、「目標12　つくる責任つかう責任」と繋げました。これまでの衣類との関わりや廃棄量の現状を考えることで、衣類を捨てずにもう一度生活に生かせるものに作り直そうという気持ちを高め、Tシャツのリメイクに取り組みました。

【担当】
宇都宮大学共同教育学部附属小学校
附属連携技術・家庭プロジェクト　石﨑由紀

4 質の高い教育をみんなに

今の自分・今後の自分に何ができるか考える取組

共同教育学部

宇都宮大学共同教育学部附属中学校では、ＳＤＧs活動への理解を深め、将来持続可能な社会の構築に貢献できる生徒を育成したいと考えています。そのため全校生が総合的な学習の時間の中で、SDGs活動を自分事として考える機会を設け、自分たちの疑問を価値ある課題になるよう吟味し、「授業」形式で他の生徒に発表するカリキュラムを実施しています。今年度は、調べ学習に加えて、SDGsの各目標について楽しみながら理解を深められる自作のゲームを取り入れました。

【担当】
宇都宮大学共同教育学部附属中学校
吉田茂興

4 質の高い教育をみんなに

共同教育学部

障害のある児童生徒へのより良い支援の在り方や具体的な支援方法を探る取組

　宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校を会場として、宇都宮大学の教授・准教授が講師となり、地域の教員を対象にセミナーを開催しています。令和元年度は「子ども理解と授業力向上を目指して」がテーマでした。

〇理科・美術を通した子ども理解と未来（講師：梶原良成、出口明子）

〇障害状況にある子どもを理解するということ（講師：岡澤慎一）

〇学校改革の実際と課題（講師：小野瀬善行）

〇発育期の運動発達・集団の中で支援を必要とする子どもの学び（講師：加藤謙一・司城紀代美）

【担当】
宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校